

アフリカ地域回廊開発の全体動向と課題

アフリカ地域回廊

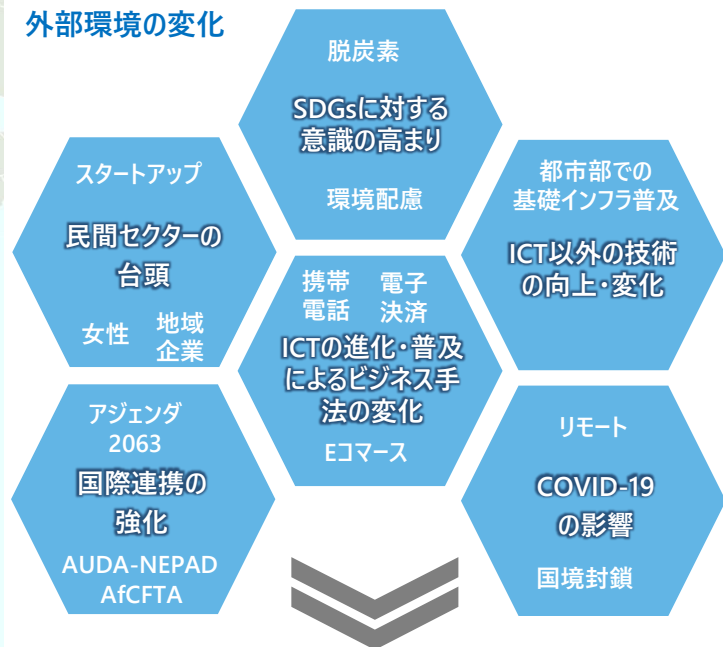
本調査は、回廊開発の3重点回廊と、南北回廊、中央回廊を対象としました。



アフリカ地域回廊開発における環境変化

アフリカの回廊開発を取り巻く環境は大きく変化しており、今後の回廊開発戦略の策定・実施においては、これらを踏まえて考える必要があります。

外部環境の変化








回廊開発戦略に大きな影響

回廊開発により克服すべき5つの壁

回廊開発では、「沿岸国と内陸国」、「都市と地方」、「国境・ゲートウェイ」等の地域特性によって、克服すべき多くの「壁」があります。その克服に必要なハード・ソフトを融合させた「5つの柱」を整理しました。

回廊開発における「5つの壁」

		ゲートウェイ	沿岸国首都・大都市	国境	内陸国首都	沿道地域
 距離と時間の壁	ゲートウェイや内陸国からの距離やインフラ未整備による輸送時間の長さ		●		●	●
 輸送インフラの品質の壁	インフラの不適切な維持・管理、利用者のマナー不足による陳腐化・老朽化の進行	●	●		●	●
 国境・ゲートウェイの壁	国境・ゲートウェイにおける非効率的な手続き	●		●		
 都市と地方の地域格差の壁	インフラが整備され繁栄の軌道に乗る都市と、成長への投資が行われない地方との格差拡大	●	●		●	●
 人・意識の壁	国境でのハラスメント、女性等の社会参画の遅れ、環境意識の欠如等	●	●	●	●	●

「5つの壁」克服に向けた「5つの柱」

制度・仕組み	ハードインフラ	経済・産業	人財	テクノロジー
--------	---------	-------	----	--------



- 多国間合意
- 貿易協定
- 事業環境
- 税制
- 文書統一化



- 交通インフラ整備
- 物流施設
- エネルギー関連施設



- サプライチェーン
- 民間活力・PPP
- 域内交易活性化



- ガバナンス
- 技術移転
- 経営、資金調達
- コンプライアンス



- 物流DX/ IoT
- 交通 ICT
- GIS・AI
- アセットマネジメント
- 脱炭素

回廊開発インパクトの検証

3重点回廊の回廊開発の効果と課題を以下の通り整理しました。

回廊開発のインパクト検証結果

	北部回廊	ナカラ回廊	西アフリカ成長リング
構成国 (関連国)	ケニア、ウガンダ (ルワンダ)	モザンビーク (マラウイ、ザンビア)	コートジボワール、ガーナ、トーゴ、ブルキナファソ
回廊沿線			
MP策定 年次	2017年	2015年	2018年
事業成果	<p>✓ 成果 モンバサ港の運営改善や貨物鉄道の部分開業に伴う貨物輸送パフォーマンス向上がみられる。</p> <p>✗ 課題 ナイロビ以西の内陸部輸送は、依然として国境通過に時間を要し、貨物輸送時間を要する。</p>	<p>✓ 成果 ブランタイヤ（マラウイ）向けのトラック輸送コスト逓減等、部分的に改善がみられる。</p> <p>✗ 課題 ナカラ港の取扱量が伸び悩んでおり、競合回廊に押され気味である。</p>	<p>✓ 成果 全主要港の整備が進み取扱量が増加している。一部ルートで内陸部への輸送費削減を確認。</p> <p>✗ 課題 ロードハラスメントなど一部の課題は残るが、運輸・物流面では、比較的順調な成果を上げている。</p>
社会・ 経済への 波及効果	<p>✓ 効果 一部地域では産業集積が見られるほか、地場Eコマースなど新技術を取り入れた産業発展の機運の上昇がみられる。</p> <p>✗ 課題 交通量増大による環境面への負荷が懸念される。内陸部、沿道地域への効果波及が今後期待される。</p>	<p>✓ 効果 回廊開発の波及効果は（未だ）発現していない。</p> <p>✗ 課題 鉱物輸出を基軸とした戦略については脱炭素の潮流において再考の余地がある。</p>	<p>✓ 効果 内陸部でも産業集積の兆候が見られつつある。</p> <p>✗ 課題 国により効果の度合いにばらつきがある。また、交通量増加による環境悪化が懸念される。</p>

サマリーと示唆

- 全体として、回廊開発事業の実施を通じた輸送状況の改善など直接的な事業成果は出つつある。一方、社会・経済への波及効果については、各回廊を取り巻く状況によって差があるものの、北部回廊や西アフリカ成長リングにおいては産業集積に進展がみられる。
- 回廊内において、地域によって裨益の度合いに違いがみられるが、地域全体での均衡ある発展を目指すためには、回廊開発の段階的な開発シナリオにそって、内陸部や地方部も含めたより包摂的な開発としていくことが望ましい。

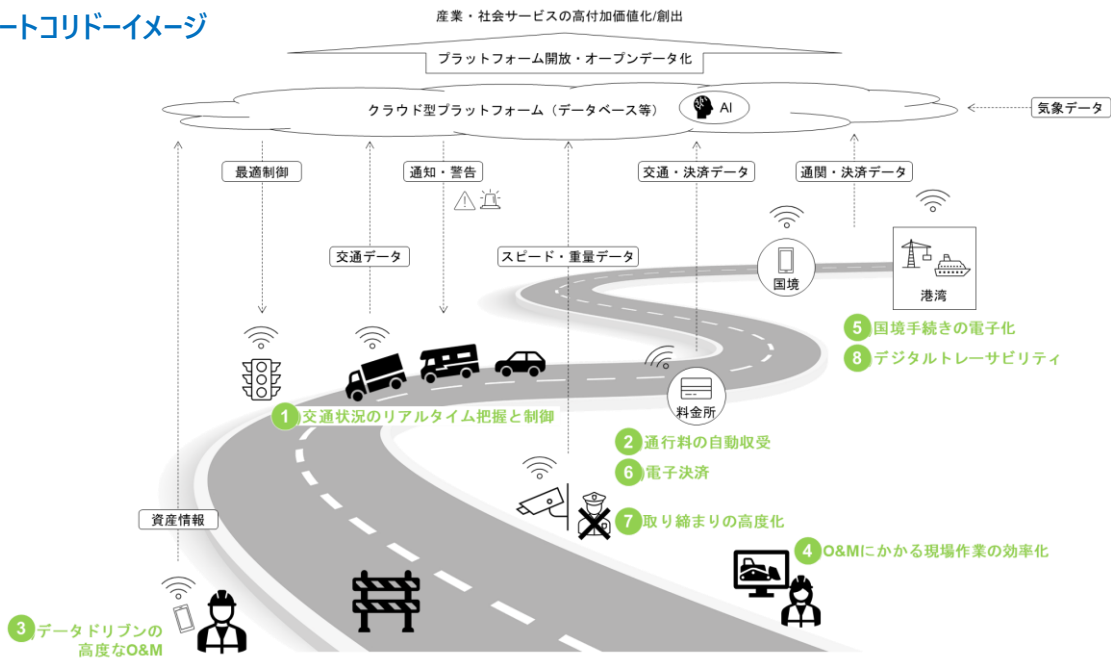
スマートコリドー

これからの回廊開発では、ICTやDX（デジタルトランスフォーメーション）を活用し輸送や貿易の円滑化、安全性の向上、質の高い維持管理の実現を通じて産業の振興・高付加価値化とイノベーションの創出を“SMART+I”という概念をもとに推進します。

“SMART+I”の概念

		具体的施策
運輸 交通	Safety 安全性向上	<ul style="list-style-type: none"> ◆ ICTを活用した交通ルール違反の取り締まり ◆ O&Mの高度化
	Mobility 交通円滑化	<ul style="list-style-type: none"> ◆ ICTを活用した交通の最適制御 ◆ 料金所のノンストップ化
ICT	Automation 電子化/自動化	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 業務や事務手続きの電子化・自動化 ◆ 業務・手続きの標準化・共通化
	Real-time データ活用	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 高頻度・細粒度でのデータ収集・蓄積 ◆ データに基づく判断・意思決定
貿易	Trade 貿易の円滑化/促進	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 貿易手続きの電子化やICTを活用したサプライチェーンの可視化
産業社 会開発	Innovation 産業社会サービスの創出と発展	<ul style="list-style-type: none"> ◆ プラットフォームの外部への開放 ◆ 公開データによる産業・社会の高付加価値化/創出

スマートコリドーイメージ



個別ソリューションの導入時には、中長期的な視点でスマートコリドーのプラットフォーム/OS（オペレーティングシステム）構築によるデータマネジメントにむけた、地域でのデータフォーマットや基準の統合・標準化を促進します。これらによる迅速で透明性の高い政策決定、オープンデータの提供による産業・社会サービスの高付加価値化や新たな産業・社会サービスの創出への貢献を目指します。

スマートコリドーに向けたアプローチ

	短期	中期	長期
事例	個別のICTソリューション導入 <ul style="list-style-type: none"> • 交通状況リアルタイム把握/制御 • 通行料自動收受 • データドリブなO&M • 国境手続き電子化、など 	国/地域横断ガイドライン作成 <ul style="list-style-type: none"> • 異なるサービス・機能の互換性保証 • データ仕様・セキュリティー標準化 • パフォーマンス・状況分析に必要なデータの収集・蓄積、など 	プラットフォーム（OS）の構築 <ul style="list-style-type: none"> • 共通機能の一元的な構築・管理 • 異なるデータの組み合わせによるソリューションの開発 • OSの共通ルールによる自前・外部サービスとの連携と活用

回廊開発の協力方針

回廊開発アプローチの更新

これからの回廊開発アプローチにおいても、「回廊インフラ整備計画」、「産業開発戦略」、「社会セクター開発戦略」を中心に、近年における外部環境の変化、開発インパクト検証結果、スマートコリドーコンセプトを含む回廊開発アプローチ2.0を策定しました。

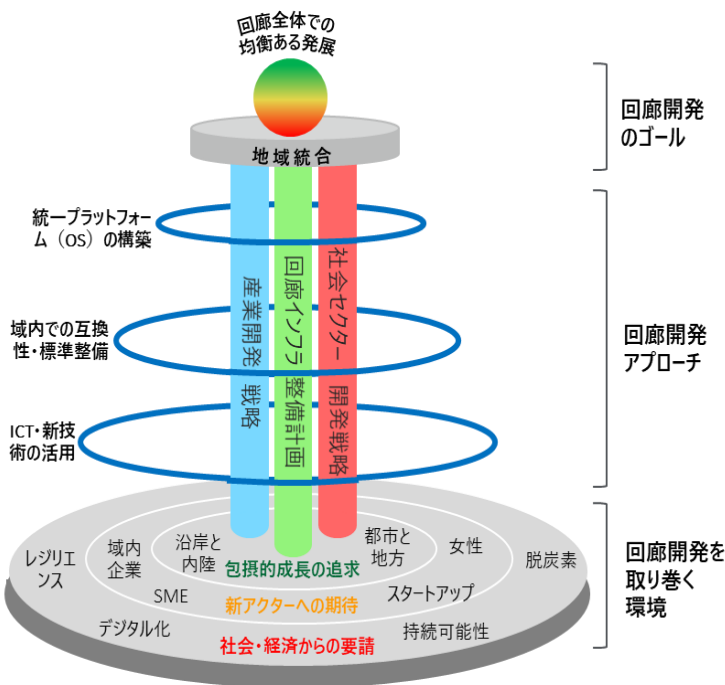
これまでのJICA回廊開発アプローチの見直しの視点

	✓ 成果	✗ 課題
JICA 回廊開発アプローチ	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 包括的複合開発：産業開発と社会開発を併せたアプローチ ◆ 拠点開発：ゲートウェイ機能強化の効果 ◆ 国境課題改善：OSBP（One Stop Border Post）による物流円滑化 ◆ 回廊開発アプローチ波及：各機関が呼応 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 格差解消の効果発現にはさらに時間が必要 ◆ 地方拠点開発の意識 ◆ 中小企業やスタートアップの支援 ◆ ICTの活用 ◆ SDGsの観点に対する意識強化

回廊開発アプローチ2.0

回廊開発アプローチ2.0では、中小企業やスタートアップの躍進、ICT/DXの活用等を回廊開発に取り込むことでSDGsを推進し、地域の包括的な成長を追求することを目指します。

回廊開発アプローチ2.0のコンセプト図



JICAの協力方針

分類	項目		
回廊開発のゴール	制度/仕組み	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 回廊開発にかかるデータベースの改善支援 ✓ インパクトに関する評価とフィードバック構造の構築 ✓ OSBPの横展開 	
	回廊開発アプローチ	ハードインフラ	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 連結性強化のための重点インフラ整備 ✓ ICTを活用したインフラ運用改善支援
		産業/経済	<ul style="list-style-type: none"> ✓ バリューチェーンを意識した物流機能強化 ✓ 地域産業創出 ✓ 金融システム強化
回廊開発を取り巻く環境	人材	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ポストODAに向けた行政能力強化 ✓ 起業家育成支援 	
	テクノロジー	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ICTソリューションの活用促進 ✓ 脱炭素化の促進 	

回廊開発における具体的な今後の協力イメージ

スマートコリドー	スタートアップの取り組み	ボトルネック解消・地方や内陸への連結性強化	OSBPの横展開
<p>回廊関連データベースの整備も視野に、各国の課題とソリューションを連結させ回廊開発の促進する。</p>  <p>カンパラ市交通管制センター 完成予想図 出所：JICA</p>	<p>地域の産業創出、また、貿易活性化にProject NINJAなどのスタートアップの支援で貢献していく。</p>  <p>ガーナにおけるキャッシュレス対応サービス (Project NINJA) 出所：JICA</p>	<p>地域統合のために域内のバリューチェーン改善に資するインフラを整備する。</p>  <p>ガーナのテマ立体交差点 出所：JICA</p>	<p>域内貿易を促進する施策であるOSBPの横展開により、回廊間の貿易の活性化を実現する。</p>  <p>ケニア-タンザニア国境のOSBP 出所：アフリカ開発銀行</p>